



# クローバー動物病院

## だより 第24号

今回は、うさぎ④についてです。



## うさぎ④

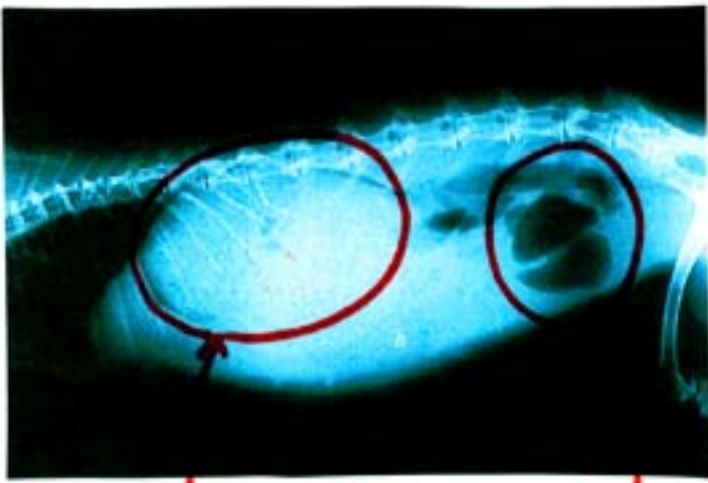
今回は、うさぎの胃内毛球症（いないもうきゅうしょう）とこれに関連している腸性中毒についてです。これらの病気も当院において患者さんが来院する原因になっている代表的な病気です。

### 1 胃内毛球症

ウサギは几帳面に毛づくろいをしますが、消化管の中に毛球（毛玉）ができて、ネコのように吐くことができず、胃腸の運動性を低下させてしまいます。

**誘因**：高デンプン質、低繊維食の食餌による胃腸機能の低下、ストレスによる過度の毛づくろいなど。

**症状**：食欲不振、排便の廃絶（便がでなくなる）、鼓脹（ガスがたまって、おなかが張ってきます）などで、次第に水しか飲まなくなり、体重減少がみられ衰弱します。時に胃穿孔（胃に穴があくこと）を起こし、急性の腹膜炎になることもあります。毛球が消化管をふさいでしまうと急死することもあります。重症でなくても、胃炎、胃潰瘍、盲腸便秘、盲腸鼓脹などを引き起こすので、処置が必要です。



◀ おなかの約半分を占め子ほど。胃が毛玉で大きくなり、ガスも発生している。盲腸にもガスがたまっている。

胃の中の毛玉(けだま)ガス



開腹手術でみられた大きくふくらんだ胃



◀ 胃の中から摘出した毛玉のかたまり



## < 毛球症の予防 >



▲ 毛球予防用の乾燥ハイナツアル。ハイナツアル。ハイナツアル酵素入りウサギ専用ペレット

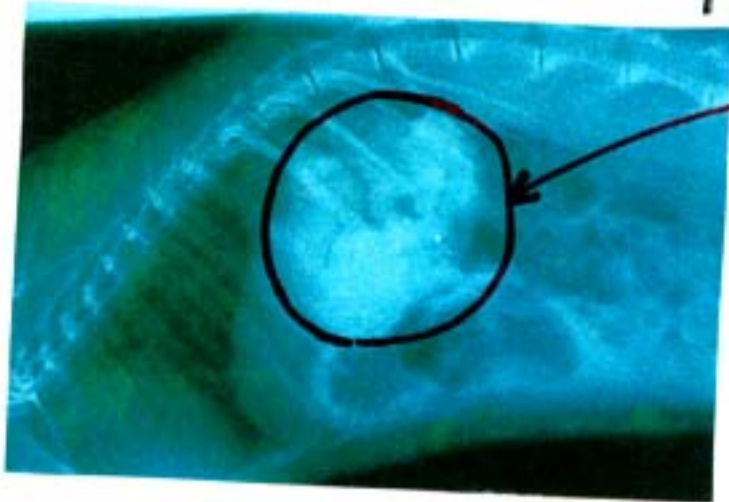


▲ 毛球予防用のハイナツアル酵素剤



▲ ウサギ専用毛球予防(除去)剤

もっ きゃう しょう  
 <毛玉症>  
 レントゲン写真

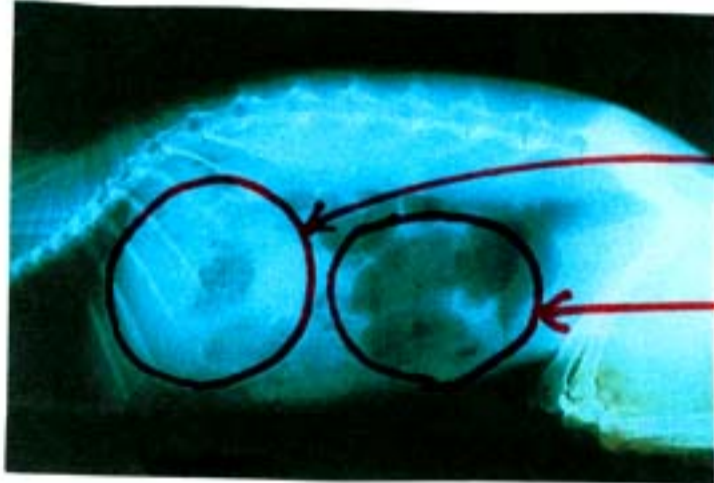


毛玉

胃の中に不透過性(白っぽい)  
 ◀塊(かたまり)がみられる。

胃の中にかたまりと  
 ガスがたまっている▶

毛玉とガス



いかくちよう  
 胃拡張

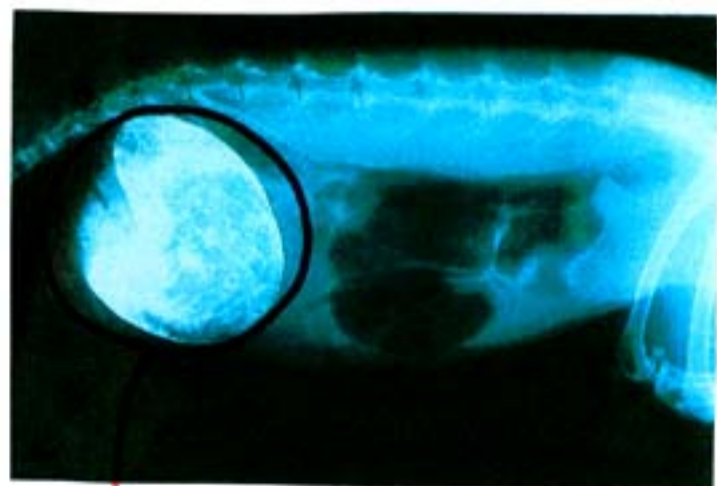
盲腸内にたまっているガス

▼胃腸の動きが悪くなり、胃が大きくなっ  
 ている。また、おなかにはガスがたまっ  
 ている

バリウム検査



バリウムをのませ、レントゲンを  
 とったところ、胃の幽門から  
 十二指腸にバリウムが通過  
 していない



胃から腸の方に流れないバリウム

## 2 腸性中毒

4~8 週齢の離乳したばかりの子ウサギ、ストレスやウサギにとって禁忌とされている薬剤を与えられた子、高デンプン質食（パン、お菓子、果物など）を与えられている子によく発生します。

**原因**：ウサギの腸内に常在しているクロストリジウム属菌（細菌）が上記の要因で増殖し、毒素様物質が発生することにより起こるといわれています。

**症状**：元気、食欲の喪失、タール状の黒色あるいは茶色の水様性下痢、腸内ガスによるおなかの膨らみ、腹部の痛み等がみられます。重症例では麻痺やケイレン等を呈し、致命的な経過をたどります。発症は急性で数時間から3日以内に発生することが多いです。

**治療**：クロストリジウム属菌に有効な抗生物質の投与、腸疾患の悪化予防、体力を回復させる治療が必要となりますが、重症例では回復困難なことが多いです。

**予防**：飼育環境、例えばケージ、えさ箱、吸水器の清浄、新鮮な水であることを定期的に確認します。特に食餌に高繊維食を加え、デンプン質の摂取を減らすことが重要となります。

**治療**：毛球予防（除去）剤と消化管の運動を刺激させる薬、食欲増進剤などを飲ませます。また、点滴、経口的に水を飲ませる必要があります。

- 予防**：①**ブラッシング**を毎日行う。
- ②グルーミングの回数を減少させ、**ストレスを回避**させるために運動や遊ぶ時間を増やす。
- ③**高繊維成分のペレット**、**野菜**、乾草を与えて、消化管の運動を活発にさせる。
- ④**パパイヤ酵素**、**パイナップル酵素剤**を与える。これらのタンパク分解酵素が毛球を構成している一部のタンパク質を溶かして、毛球をほぐして流出させる。パパイヤ、パイナップルジュース、乾燥パパイヤ、パイナップルも同様である。
- ⑤**毛球予防（除去）剤**や**潤滑油**を与える。市販されているウサギまたはネコ用毛球予防（除去）剤を使用する。油性潤滑成分が毛球をほぐし流出させる。非常に味を嫌がる子が多いのが欠点である。